事後評価報告書
(日本-中国研究交流)

1. 研究課題名： 気候変動に対する海洋生態系応答機構の解明

2. 研究代表者名：

日本側： 長崎大学大学院水産環境科学総合研究科 教授 石松 惇

相手側： Xiamen University, Professor Gao Kunshan

3. 総合評価： C

4. 事後評価結果

(1) 研究成果の評価について

長崎大学における海洋環境実験水槽によって、海洋酸性化、海洋温暖化が基礎生産に及ぼす影響に関する実験等を実施して結果を得たこと、また相手国側機関での湾内設置型の海洋環境実験水槽の構築と関連研究の進展に寄与したことは評価できる。

一方で、計画していた流れ藻の放流共同調査ができなかったことは残念である。加えて、国際会議での発表はなされているものの、共著論文をはじめ、相手側研究チームとの連名の発表が無く、国際科学技術協力推進の観点から工夫が求められる。

(2) 交流成果の評価について

小規模とはいえ、日本側研究チームおよび相手側研究チーム主催のワークショップが開催されていることは評価できる。困難な状況の中で多少とも交流を持つことができたことは認められる。

一方で、人的交流の成果が乏しく、日中の両代表者間の信頼関係が醸成されずに終了したと見て取れることは残念である。中国との東シナ海における共同研究には政治的な規制があることから、あらかじめ流れ藻の放流実験ができなかった場合の代替的な計画案が必要であったのではないかと思われる。